

明るい 『訪問介護』 ニュース

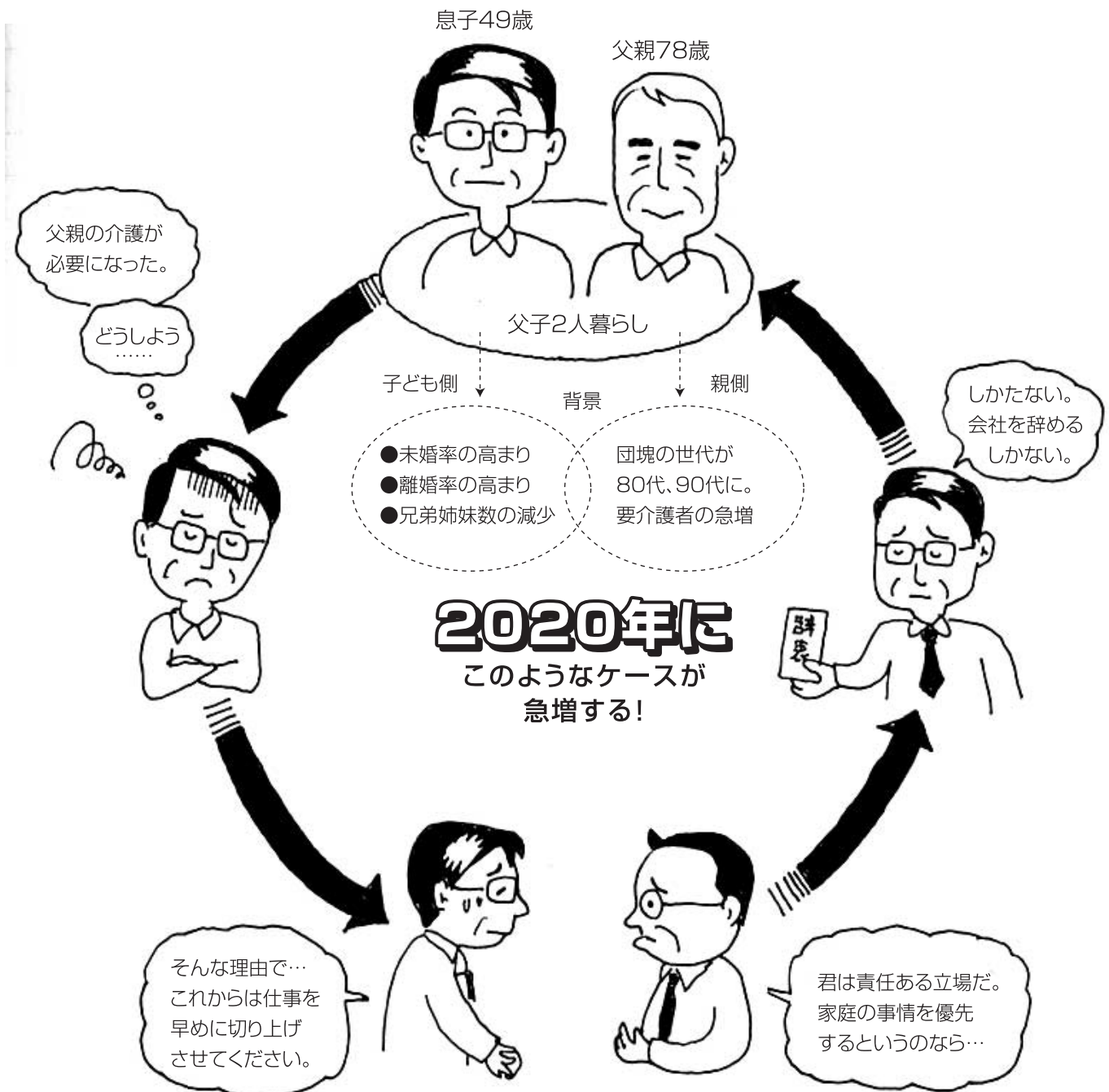
No.005 2014年6月号

発行：特定非営利活動法人つむぎ
〒632-0074 奈良県天理市東井戸堂町372-1

介護離職への理解 を地域ぐるみで

高齢化にともない、働き盛りの40～50代が介護問題に悩むケースが増加しています。毎年10万人の人が仕事を辞めているというデータもあり、中には仕事と介護を両立できず、周囲の理解も得られないまま追いつめられるケースも。経済的な不安を抱えたまま、現実と直面せざるを得ない介護離職問題。深刻なのは、2020年には団塊の世代が75歳を越えるので、こういったケースが急増すること。目前に迫った大問題に、私たちはどう対処すればいいのでしょうか。

介護離職のしくみと、問題



2020年に何がおこるのか？

団塊の世代が75歳を越える2020年代から、介護を必要とする高齢者が急増すると予想されます。これを支えるべき団塊ジュニア世代は、未婚率、離婚率ともに高く、なおかつもともと兄弟姉妹の数が少ないため、家族で介護を分担することが困難になってきます。これによって介護と仕事の両立が難しくなり、職場や周囲の理解を得られないまま、離職せざるを得ないケースも少なくありません。

団塊ジュニア世代といえば、まさに経験豊富で、働き盛り。管理者を含むこれらの世代の介護離職は、本人ばかりか、企業にとっても、社会にとっても、大きな損失になります。私たちは来たる2020年の問題に対し、他人事ではなく、現実と向き合わなければなりません。

介護離職の現実問題

周囲の不理解から「介護離職」、イコール「早期退職」という悪しき流れが、社会問題として浮上します。定年前の退職は、満額に満たない退職金を切り崩しながら、年金と合わせた生活を余儀なくされます。

一方、地域にとっても、これは大きな問題をはらんでいます。生活に困窮した家族が家を手放すケースが増え、地域のゴーストタウン化が加速していくのです。

介護離職への理解と取り組みを

ここまでの話で共通して言えることは、介護離職は本人だけの問題ではなく、企業にとっても、地域にとっても、社会にとっても、決して他人事ではないということです。

思いつめる前に、まずは相談しましょう！
あなたの町の
「地域包括支援センター」へ



安心して暮らせる高齢社会の中心的役割を担うのが、私たち訪問介護業界や、地域の支援センターです。必ずできます！さあ、みんなで明るい高齢社会をつくっていきましょう！

明るい訪問介護プロジェクト <http://www.tumugi-homonkaigo.com/>

やること、
多すぎ…

詳しくは上記webサイトへ！

業務の「ムダ」、 効率の「ムダ」、 見直しませんか？

訪問介護の「現場」で生まれた、「現場」のための業務支援ASP

無駄ヘルサポート

- 訪問介護の業務にかかわるあらゆる帳票をサポート。
- シフトの作成が簡単、ヘルパーの稼働率アップに！
- 操作も簡単、インターネットにつなぐだけでご利用可能。
- 必要なデータは、ボタン一つで印刷可能。